

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
成果	課題
◇共通指標アンケート「疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている」「分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている」の項目で肯定的な回答が80%を超えている。 ◇日常の授業の中で、子どもの既習や経験と結びつく場を学習に組み込んだことで、学習を身近に感じ主体的に授業に参加する子どもの割合が増えてきた。 ◇ICTを活用した学習を進めていく中で子どものスキルが向上し、6年生に実施した質問調査では、90%の児童がプレゼンテーションの作成ができると回答している。	◇主体的に学習に参加しようとする態度が見られる反面、自分の考えを全体の場で発言しようとする意欲が低く、共通指標アンケート「自分の意見を進んで発言しようとしている」の項目では70%以下になっている。 ◇与えられた課題には意欲的に取り組めるものの、子ども自身が自ら問いを見いだすことが難しい。 ◇授業の意見交流の場において、自分の考えを表出したり、友達の意見に対する疑問を投げかけたりしながらお互いの考えを深めていく「聴き合い」の質を高めていく必要がある。
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
◇相互承認の土台となる「人のよいところを見付けようとしている」という共通指標の項目では約90%が肯定的な回答をしているものの、「自分が必要とされていると感じる」という項目では肯定的な回答が70%を下回っている。 ◇話すスキルの育成と聴くスキルの定着を目指した指導を積み重ね、対話的な学びの質を向上させることが、相互承認の感度を上げていくために必要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら学び ともに認め合う子の育成

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1) 学校研究の基盤を「自分の経験や友達の考えと向き合い、自分を更新する姿」を目指す子ども像として設定し、その具現化を図る。 (2) 授業づくりの視点を「明確な問いや目標が生まれる教材化」「届ける・つなぐ・紡ぐ」とし、この2点に焦点を当てた授業研究を進めていく。 (3) 全担任が授業研を行い、研究討議を重ねながら個々の授業力を高める。	① 自治的な委員会活動の充実 →児童がよりよい学校を作っていくために自分たちで問題を見だし、解決に向けて主体的に活動を作っていくことができるよう支援する。 ② 自治的な係活動やクラブ活動の充実 →児童の意思を尊重した係やクラブの設置、活動内容の決定をする。
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
◇毎週末にChromebookを持ち帰り、ICTを活用した課題に取り組む機会をもつことで、個々のICTのスキルの向上を図る。 ◇発達段階に応じて、日常の授業の中で、Googleスライドやオクリンク等のアプリケーションを活用して自分の考えをまとめたり発信したりする活動を取り入れる。 ◇発達段階に応じて、学級の係活動等でGoogleクラスルームやGoogleフォームを活用することで、子ども同士の意見の集約や情報の共有等を行う。		

<本プログラムの実行に向けて>

